多重辞書類似度法による手書き漢字識別の研究

工学部電子工学科助教授　塩　野　　充

文字認識の最も基本的な方法である重ね合わせ的手法はその簡便さと，雑音に対する強さから近年手書き文字認識にも応用が活発化している。しかしながら単純な重ね合わせだけでは認識性能においてある限度を越える事は困難であり，大分類段階で利用するにも不十分な能力である。重ね合わせ的手法の典型である単純類似度法においては辞書パターンは一般に１カテゴリ１個である。そこで本研究では１カテゴリの辞書パターンを複数化した類似度法（多重辞書類似度法と呼ぶ）において，辞書パターン数を次第に増加させていった場合，認識率はどのように変化してゆくかを調べる事により，類似度法の持つ基本的な識別能力を検討する実験を電総研手書き漢字データベースＥＴＬ８－Ｂ２により行ってみた。実験では辞書パターン数の増加に伴い，認識率も単調増加してゆき，１カテゴリ当たり80個の辞書パターンを使用した場合，同じ80個の辞書パターンを加算して作成した単一の辞書パターンを使用した単純類似度法より約11.7％高い認識率91.45％が得られた。